

大萱城址と鞍掛山

月館字三拍子の奥に大萱という所がある。昔田代信義という武将がここに館をきざうて、居城にしたといわれている。信義の祖先田代信綱は、頼朝の家臣で建久三年平家追討の時は、一方の旗頭として武勲をたてて将として歴史上有名な人だった。信義も先祖の血をついで豪雄としてうたわれ、北畠顕家が靈山城に籠って南朝の為に戦った時、いち早く義兵をあつめ近くの鞍掛森で愛馬に鞍掛けて出陣し、顕家のもとに馳せ参じたといわれている。その後、信義の子孫は小島田代に住みつき、農業にはげんだといわれている。大萱城は小屋館ともいわれ、規模も大きく、当時の戦には攻めるにむずかしく守りに堅い館だったといわれている。

田代信義の子孫が田代に去ってから、その臣下であった菊地氏が大萱の館に住んでいて、大農として生活しておったという。菊地藤兵衛は、やしき内に石の氏神二基をまつり、鳥井田全部の耕地を自作し、下糠田村（今の大字月館）でも一、二を争う豪農としてはびこっていた。しかし、その子孫に災難が続き、遂にこの地から他へ移って行ったとのことである。今、菊地家の邸宅跡には石垣と先祖累代の墓石が華やかだった昔の姿をのこしている。